

活動紹介 渡邊とみ子

福島の福幸(ふっこう)の
ために



1: 自己紹介

渡邊 とみ子

- 1954年1月生まれ
福島市(水原)出身
- いいたて雪っ娘かぼちゃプロジェクト協議会
会長
- ふくしま女性農業生活文化研究所 所長
- までい工房美彩恋人 代表
- 元NPO法人かーちゃんのカ・プロジェクトふくしま理事



2:私の原点～飯舘村での暮らし～

「女性も地域のリーダーとなり、自分達の地域の事は自分達で考えて行く」**地域づくり**の活動が原点です。

1

飯舘村
第4次総合計画
地区別計画策定・推進委員
としての活動
(1993年)

- ・補助金(10年間で1,000万円)を各行政区に配布し、住民と行政が協働で**地域づくり**をするという活動です。
- ・当時は、**女性が表舞台に立って意見することはあまり馴染まない時代**でした。

2

市町村合併を考える
村長の諮問機関
「村民企画会議」委員
としての活動

- ・合併是非が村を二分する中でも、“飯舘村”を無くしたくないという強い思いがありました。
- ・区長会会長、商工会会長など男性ばかりの場に、**普通の主婦**である私が、住民代表として参加しました。

・地域づくりに参加し、「飯舘村で暮らす」という事を真剣に考えられるようになりました。

2:私の原点～飯舘村での暮らし～

第3回クオリティライフ顕彰事業受賞。
素敵な田舎暮らしを堪能。地域の女性たちと
手づくりを楽しんでいた。



3: イータテベイクじゃがいも研究会

「地域づくりで夢・目標を持ち、それを具現化するという思考回路」で頑張ってきました。

イータテベイク
じゃがいも研究会
会長
としての活動
(2005年6月)

・飯舘村出身の菅野元一氏が自ら育種し、品種登録した飯舘村オリジナルのじゃがいも「イータテベイク」と、かぼちゃ「いいたて雪っ娘」を、「自立を選んだ飯舘村の地域振興の為に」と提供して下さり、農業委員会と菅野氏との話し合いの中から、研究会が発足しました。



イータテベイクの花

・最後まで残ってくれたメンバーの励まし

・育種者 菅野元一氏の思いを無駄にしたくない

外は雪、こたつに入って嫁・姑の悪口を言っているのではなく、知恵を出して1円でもお金になる物を考える。
起きてしまった事を嘆いてばかりではなく、未来に対する対策を考える。
世界に通用するじゃが芋、かぼちゃを飯舘村から発信する！

3: イータテベイクじゃがいも研究会

加工施設
「までい工房美彩恋人」
の立ち上げ
(2007年4月)

・美彩恋人(びさいれんと)=Be silent.
・「イータテベイク」や「いいたて雪っ娘」の
生産・加工・販売をする。

し
か
し

・お金のない私には辛い起業でした。
—「加工はしたいが、お金は出せない」
農家の嫁が小遣いの中から出資するというのは厳しい

【研究会・加工施設の立ち上げ
から学んだこと】

仲良しグループ・サークル感覚では駄目ということ。夢・目標が
高ければその道は険しく長い道のりになる。しかし、一歩踏み
出さなければゴールはない。

4: 原発事故～全て奪われてしまった～

「イータテベイク」がようやく世の中に出せる、そう思った矢先の原発事故でした。

イータテベイク、種芋生産が国から認可される
(2010年)

イータテベイクの種芋生産は国家管理で、種芋生産がようやく国から認められて始まったのは平成22年でした。私も馬鈴しょ植物防疫補助員として何としても世の中に出す為に頑張りました。その結果、飯舘村で原種栽培が合格になり、23年度産で採種が合格すれば念願の世の中に出せる段階になっていました。



原発事故前の工房入口



避難後4ヶ月の姿



2012年12月の風景この姿を見るたび涙が溢れてならない

4: 原発事故～全て奪われてしまった～

飯舘村での生産はできなくなりましたが、これまでの
思いと活動をそう簡単に諦めたくはありませんでした。

避難先にて、種をまく。
(2011年5月)

- ・イータテベイクもいいたて雪っ娘も作付時期を迎え、先の見えない中での生産でした。
- ・何とか種繋ぎをしようと必死でした。そして5月には、避難先で畑を借りて種を撒き、未来に繋げる種を収穫しました。



種芋生産の第1期検査
ばれいしょ植物防疫補
助員の仕事



夫の理解が一番の原動
力



避難先でいいたて雪っ
娘を生産



避難先でいいたて雪っ娘の収
獲祭開催



5: かーちゃんのカ・プロジェクト開始

飯舘村で繋がりのあったかーちゃん達を一人一人訪ね歩くことから始まりました。

・かねてから飯舘村の地域づくりに関わっていただいていた福島大学の先生から「とみ子さん、今どうしているの？」という電話があり、直接お会いして「かーちゃんのカ・プロジェクト」の構想を聞きました。

・飯舘村と同じように原発事故の避難者であり、畑も加工場も奪われてしまって生きがいをなくしてしまったかーちゃん達が、食に関する技や味を伝え、地域を元気づけることを目標にした活動のお話でした。



・避難後の生活、今後どうしたいかなどを訪ね歩きましたが、その当時のかーちゃん達からは、「先の見えない中でこの先どうしたいかは考えられない」「自分達で作った物が使えなく、他で作られた物を買って使ってまではできないし、意味がない」とマイナスの言葉が目立ちました。



・しかし、仮設で支援だけの生活ではなく、自分達で動き出したい！誰かが引っ張って行ってくれるのなら動き出せる気がする、という声も聞こえました。

「結もち プロジェクト」の開催へ。

かーちゃん達を
一人一人訪ね歩く

(福島大学小規模自治体研究所
契約職員として)

(2011年10月)



5: かーちゃんのカ・プロジェクト開始

独自の自主基準を決める

食の安心、安全って何？



・避難先で作った「いいたて雪っ娘」を直売所に出したい！！



・飯館の名前を出すのか？と言われる。土もかぼちゃも測っていた。当時の国の基準よりはるかに低い数値でNDであった。しかし、応援してくださってる方から「とみちゃんの中で安心、安全基準きめな」と言われた。



・勉強していく中で私の中で独自の基準を決めた。=20bq/kg以下
当時の国の基準500bq/kgよりはるかに厳しい基準にした。一般の民間のかーちゃんレベルで決めるというのはかなりの覚悟の上であった。

かーちゃんのカ・プロジェクトの基準とした

5: かーちゃんのカ・プロジェクト開始

地域の方々に支えられて



何もなかったあぶくま茶屋



立表六十路会の方々による
環境整備



結もちプロジェクト
活動のきっかけとなった



福島大学の学生の応援で大掃除

5: かーちゃんのカ・プロジェクト開始

「結もち プロジェクト」をきっかけに、かーちゃん達に笑顔が戻ってきました。

「結」
(2011年12月)

・当時、福島の玄米から国の基準の500ベクレルを超えるセシウムが検出されて、福島の米が使えない状態でした。困った私達の為に、福島大学の先生が兼ねてから交流のあった、新潟県石打地区から、もち米と青肌大豆の提供がありました。「中越地震でお世話になったからお返しです」という温かい心遣いが、私達の第一歩になりました。

・人と人を結ぶ、地域と地域を結ぶという「結」の気持ちから「結もち・プロジェクト」としました。このプロジェクトがきっかけで、かーちゃん達に笑顔が戻ってきました。そして、「またやりたい！」という声があがったのです。



5: かーちゃんのカ・プロジェクト開始

福島県地域雇用再生創出・モデル事業として、かーちゃん達12名の雇用が始まりました。
(2012年4月)

・健康弁当や、漬物、お菓子等の製造販売ができるようになり、拠点としている「あぶくま茶屋」にはかーちゃん達の賑わいにあふれています。



漬物づくり(2012年1月)



増える新商品(2012年5月)



放射能検査後の無残な検体



かーちゃん弁当の研究開発(2012年5月)

5: かーちゃんのカ・プロジェクト開始



秩父農工生との連携・阿武隈の凍み文化の継承とあぶくまの食の遺産継承



かーちゃん達の故郷、あぶくま地域の伝統料理の継承と普及を目的に、高齢者の方からのインタビューやレシピ等を紹介し、あぶくま御膳や弁当を開発し、福島を訪れたお客様向けの飲食メニューとして提供してます。



6: 活動の転換期・避難解除になり

組織	1	かーちゃんのカ・プロジェクト	<ul style="list-style-type: none">・協議会は、任意団体。2016年4月よりNPO法人かーちゃんのカ・プロジェクトふくしまに移行。・助成金が無くなった後、かーちゃん達の自立と自律に向けて請負制度での仕事づくりで運営。・2017年3月末であぶくま茶屋での活動を終了最終的に利益を出し、財産を残して卒業できた。
	2	いいたて雪っ娘かぼちゃプロジェクト協議会	<ul style="list-style-type: none">・飯舘村で一緒に活動していたメンバーと「いいたて雪っ娘」の栽培・種とり作業・普及活動を継続。・メンバー達と育成者の菅野元一氏との間では、知的財産権の使用許可を得ながら、全国に種の販売も行っている。・全国にいるファンクラブの方々との交流活動。・プロの料理人との交流活動。
個人	1	モチベーションのコントロール	<ul style="list-style-type: none">・立ち上げはかなりのエネルギーがいる。ブレない太い軸をきっちり持っていないと諸々のものに潰されてしまう。常にモチベーションアップに努力している。
	2	個人の夢	<ul style="list-style-type: none">・イータテベイク、いいたて雪っ娘を世の中に出すという夢・目標を持ってやって、育成者との約束は果たせた。今後、までい工房美彩恋人のヒット商品となるような渡邊とみ子ブランドを新たに作っていきたい。

未来に向けてこれからの活動

2017年3月31日で避難解除・4月1日から飯舘村の畑で栽培開始



避難前の作付の様子



避難で荒れ果てた畑



除染は終わっても肥沃な土は奪われてしまった。



まずは土作りと鳥獣害対策から



飯舘村での営農再開をするには届出が必要で、土の放射性物質の検査、土の成分検査をして施肥指導を受けて初めてできます。2017年はH・I・Sのスタディツアーで畑づくりから種撒き、収穫の体験受け入れをしました。東電のボランティアの方々が猿・猪対策の電気牧柵の設置をしてくれたおかげで被害が防げ、無事収穫まで至りました。改めて故郷で作れたことに感無量の思いでした。

未来に向けてこれからの活動



飯舘村の圃場で作られた「いいたて雪っ娘」も、心配された放射性物質は基準越えをする物はなく、飯舘村の道の駅での販売が出来ました。勿論、種や種の皮、油からも不検出。全国に「いいたて雪っ娘」を栽培したいという方々も増えてきた。イオンさんの協力を得て、イオンさんでの店頭販売も出来た。需要と供給のバランス、後継者づくりが課題である。

6: 避難解除・までい工房美彩恋人の活動

語り部活動や視察研修受け入れを通して福島を伝えていきます



までい工房美彩恋人として生産・加工・販売を通して広めていきます



あぶくま食の遺産継承活動などを通して次世代に食文化を繋いでいきます



伝えます・広めます・繋ぎます

6: 避難解除・二地域居住の課題解決に向けて

今後、二地域居住で暮らすにはこの家、この場所からの収入を得ないと年金生活の中での暮らしは破綻してしまう。



夫を亡くし、二人で一緒に夢見た民泊か民宿をいつかこの場所でやりたい！

6: 避難解除・二地域居住の課題解決に向けて

食と農の交流からの再生

飯舘村の我が家を今後、交流の場として民宿か民泊の営業許可を取っていく。

「いいたて雪っ娘」の栽培を通して農の体験から再生の道を共に体感していく。

伝統食や栽培途中で出来た産物を利用した料理の提供で田舎と都会の交流を図る。



田舎のあたり前が都会の方々には宝もの



共感から和が生まれる
(ファンができる)



自分の持っている知恵や技を惜しみなく提供する

心の復興と自立への道へ

辛かった時、現場から学んだ事

あきらめないことにしたの

沢山悔しい思いをしたよね

沢山、沢山泣いたよ

でも、生きてる

やっぱり止まっては駄目だよ

どんなに小さな一歩でも前へ進んだら

ほらね。実ってくれたんだもの

植物は、こんな状況の中でも

頑張っ生きてるんだもの

だから私は

あきらめないことにしたの



私の持論・全ての答えは現場にある

何かをやろうとすれば困難にぶつかる事もある。

何もやらなければ何も残らないし、何の成長もない。とにかくやらない人程、理由付けをする。

しかし、撒かない種には芽もでないし、実もならない。これからも新たに心に撒いた種を育ての親として立派に花を咲かせて、刈取りできるように大切に育てていきたい。



ありがとうございました。